



16



洪水が多発した三峰川下流して造った。三峰川の右岸で
で見られる不連続の弓状の堤 八カ所、左岸で三カ所現存す
防。堤防の一部を切り、下流する。

側の堤防を田や集落のある上 集落ごとに霞堤はあり、主
流方向にカーブを描くように 明治時代に造られた。霞堤

は堤防の不連続部分から洪水
の濁流を氾濫原に引き込み、
自然に水が引くのを待つ仕組
みの特徴とする。堤防の本格
的な決壊を防ぎ、洪水を調節
した。霞堤の上流で堤防が決
壊した際には速やかに濁流を
本流に戻し、被害を拡大させ
ない役割もあった。

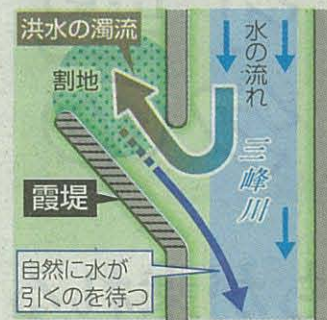
洪水時の氾濫原を「割地」
と呼び、集落の住民が持ち回
りで管理した。伊那市美篤の
農業矢島信之さん(左)は「住

洪水調節豊かな土守る

民が協力し合い、『わが村
は、わが堤防で守る』という
自治の精神が読み取れる」と
話す。

霞堤は洪水の水を下流に吐
き出す代わりに、上流の豊か
な土を流域の水田にとどめ、
蓄積する役目も担った。堤防
沿いの道を車で行くと、広い
水田が広がる。先人たちの協
調性と自己犠牲の精神が、実
りの秋を豊かなものにしてき
たのだろう。(札木良)

●霞堤の仕組み



(伊那市美篤など)

霞堤

